



2024年4月1日

各 位

ENEOS株式会社

社長就任挨拶について

本日、ENEOS本社（東京都千代田区）にて、当社社長 山口 敦治が社員に向けて就任挨拶を発信しましたので、要旨を下記の通り、お知らせいたします。

記

皆さん、こんにちは。ENEOS社長の山口 です。

【はじめに】

最初に、簡単な自己紹介をさせていただきます。

大学院で化学工学を学んだ後、1994年に入社して、主に製油系のエンジニアとしてキャリアを重ねてきました。勤務経験は、製造部門の各部のほか、水島・根岸・鹿島・和歌山、30年間の半分以上を製油所で過ごしてきました。直近では、和歌山製油所・製造部・再エネ事業部・電気事業部を経て、現在に至ります。

この間、様々な困難に直面してきましたが、大切なことは、「誰が悪いのか」ではなく、事実関係をしっかり把握して次の一手を講ずることです。そのために、当事者が事実を言える環境をつくること、現場・現物・現実を自分の目で確認すること、関係者、特に現場の意見を尊重して次の一手を考え決めることを重視してきました。

2年連続の経営トップの不祥事と、それも踏まえた経営体制変更というタイミングで、ENEOSの舵取りを引継ぐことになりました。グループのコアビジネスを担い、従業員の皆さんと、そのご家族の生活に責任を持つ立場となり、大変身が引き締まる思いです。

【再発防止について】

ENEOSの社長としての「喫緊の課題」・「最大の使命」は、不祥事で失墜させたお客さま、特約店・販売店・SSの皆さま、ビジネスパートナー、そして、何よりも従業員の皆さんとの「信頼関係の構築」です。

「従業員の皆さんが安心して、誇りを持って働ける環境の再整備」に向け、今年1月から、ハラスメント対策プロジェクトが立ち上がり、ヒアリングやアンケートにもご協力いただいています。

この取り組みを通じて、私は、ENEOSを「人を大切にする会社」にすることを目指していきたいと考えています。

まずは、役職者を中心に、意識と行動を振り返り、改善を図っていきます。
もちろん、私自身も率先垂範します。

マネジメントのスタイルは人それぞれですが、「あらゆる場面で相手を敬う心を忘れないこと」、「困難に直面した際、“なぜできないのだ？”ではなく、対話を通じて“どうしたらできるのか？”と一緒に考えること」が浸透するように取り組んでいきます。

意識面だけでなく、仕組みに関しても、「権限委譲と説明責任の徹底」・「業務の簡素化・スリム化」・「コストや意思決定プロセスの見える化」を通じて、前向きな取り組みが業務の中心となる環境を作り上げたいと考えています。

【事業についての抱負】

次に、事業についての抱負ですが、カーボンニュートラルの動向を始め、世の中の変化は更に加速しています。いつの時代も「あたり前を支え・リード」し、そして、社会の発展と活力ある未来づくりに貢献し続けるため、「長期ビジョン」と「第3次中期経営計画」の取り組みを止める訳にはいきません。

この実現のため、2024年度、ENEOSは、「確かな収益の礎の確立」・「資本効率の重視」・「エネルギートランジションの実現に向けた取り組みの加速」を重点目標としています。取り組みの大きな方向性は、これまでと変わりませんが、燃料油・化学品・潤滑油・ガスの各サプライチェーン、カーボンニュートラル、プラットフォーム、コーポレートの各分野・各持ち場において、これまでの継続だけではなく、いいものは更にブラッシュアップし、立ち止まって方向転換すべきものは変えていきたいと考えています。そのなかでも、特に私は、3つのことを重視したいと考えています。

1点目は、ENEOSグループの根幹である「製油所の安全・安定操業」です。

私自身も製油所に長く携わりましたので、設備の経年化や過去の負債といった難しさの中、製造現場の皆さんの日々の尽力は承知しています。しかし、更に高いところを目指さなければなりません。

2点目は、「カーボンニュートラルに向けた取り組み」です。水素・SAF・CCS・合成燃料等、様々な検討を行っていますが、それぞれの工程をプロセスエンジニアの視点でも改めて評価



のうえ、ENEOSのみでなく、社会全体として意味のある、優先すべき対応を、しっかりと見極めていきたいと考えています。

3点目は、「各事業のお取引先の皆さまとの関係」です。

ENEOSブランドを一緒に創ってきた特約店・販売店・SSの皆さまは、エネルギー事業の基盤を担ってくださるだけでなく、我々が未来づくりに貢献していくための大切な存在です。加えて、カーボンニュートラルに協働で挑戦するビジネスパートナー、日々を支えてくださるサプライヤーの皆さまとも対話を重ね、現状と課題を把握したうえで、今後も共に歩んでいきたい。そのための最初の一步として、まずは、信頼関係の構築に努める必要があります。

【終わりに】

今後も折に触れて、私の思いや考えを皆さんにお伝えしていきます。早い段階で、各所・各支店にお邪魔したいと思っておりますし、組織風土に関しては、より良い意識と行動が組織内に浸透するよう、私自身が役職者の皆さんと直接対話を重ねていきます。

信頼関係の構築と各事業の取り組み加速のため、皆さんとともに、また、各ステークホルダーの皆さまのお力添えを頂戴しながら、新しいENEOSを牽引していきたいと考えています。

本日から、宜しく願いいたします。

以 上